

# 北欧保育短信 (一)

飯田 泰造

一年の予定で、ヨーロッパ各国の幼児と

児童の教育を、造形活動を主にして見てま  
わるために、ストックホルムに到着したの  
は、七月の末でした。すぐ文部省に、スク

ールコンサルタントをしているストロンベ  
ルイ女史を訪ね、その旨を述べ、できるだ  
け特色を持った施設をとお願いをしました  
ら、快く受け入れ、三週間の後、細かい行  
きとどいたスケジュールを組んで下さり、  
一切の手配を完了して下さったようです。

学校は、大体九月から一斉に始まりますの

で、それを待ってまず初めに、北の端のウ

メオー (Umeå) という町にきました。大学  
を中心にして、教育者養成の機関が整って  
います。

スウェーデンの幼児教育者養成は、一九  
六二年に全部、文部省の管理下におかれ、  
つまり国立になっています。現在十四の養  
成学校が十三の都市に分散して置かれてお  
り、幼稚園 (Förskola) も保育園 (daghem)  
もまだ十分にその必要を充たしていない  
とのことでしたが、ウメオーの養成学校

(förskolseminarie) では、二年制で各百人  
ずつの学生が学び、実習をしています。興  
味のある事実は、今年度入学者の中に五名  
の男子学生がおり、ウメオーにも一人加わ  
っていました。その町の幼稚園は、そのの  
養成学校の実習園として、institute と呼  
んでいるほどですから、大きな影響を受  
け、この町にある十一の幼稚園と近在の  
園を見て巡りましたが、やや統一されてい  
る感じを受けるほど、同様な保育の様式を  
持っていました。

完全な自由保育をしており、二十人ずつ  
の子どもが、午前は九時から十二時まで  
と、午後は一時から四時までの三時間を、  
二交代で保育を受けております。創造的な  
ふんいきの中で、各自が思い思いに精一杯  
遊んで、自己を發揮しているようすはまこ  
とに快いものです。スウェーデンは良質の  
木材が豊富な国ですから、家具や工芸品に  
もすぐれたものがありますが、どこの園で  
も、大がかりな木工を「製作」にとり入れ

ていました。男の子もそして女の子も大きな素材にたち向かって、工具を自由にあやつりながら、のびのびと製作を行なっています。しかし、家庭のしつけが幼児にはきびしいので基本的な生活習慣がよくできており、九月から始まったばかりの子どもにも、このような活動ができるのだと思います。全く木工場のように散らかってしまふのですが、帰り近くなると、だれいうとなしに片づいてしまつて、あまり先生の手をわずらわさないのには感心しました。

フィンガーペインティングや、絵を描いている子どもには、もう六〜七歳に近いのですから（スウェーデンでは、七歳から入学します）、もう少し適切な刺激や指導があつてよいと思つたのですが、何しろまだ始まつて二週間目ほどでしたから、全く自由にしておくとのことでした。うらやましく、また日本の幼稚園にもぜひ試みたいと思わせられたことは、先生方のアイデアでの園にも思い切つたおもしろい遊具があ

つたことです。それは、たいいてい、木材を使い、電柱ぐらいの丸太や角材を組みあわせたり、縄を編んだような、素朴なものですが、よく子どもたちが、喜んで遊んでおり、しばしば庭全部を砂場に行っている園も見ました。また、冬期の長いこの幼稚園では、室内用の砂場が、どの園にもあり、移動式で、夏はそこに水を入れて遊ぶという、水ぬき穴のついた台があります。天井までとどく、肋木や、室内ブランコ、そして、ふんだんにエバーソフトを使つて、飛びおいたり、とんぼ返りをしているのは壯観でした。

ままことも専用の電気オーブン、グリル、流し台、調理台があつて、本ものをごちそうしてくれます。先生も十時と三時には、お茶やコーヒーを飲みますが、そんなときには、先生は先生、子どもは子どもという感じでした。どこの園も専任の先生は一人か二人で、実習生が、三、四人ずつ配属されていますが、ほとんど観察し、記録

をとっているぐらいです。交通安全の教育は、ここでもなかなか徹底してやっています。わざわざ並ばせて、大通りまで行き、訓練をしていました。何しろ百キロメートルぐらいのスピードで自動車が走っていますから、目測を誤るとたいへんなことになります。少しもあわてず、急がず、絶対安全まで待つ余裕は、ちょっと日本ではまねのできそうもない光景でした。

× × ×

一方、フィンランドからの招きを受けて、三日間でしたが、養成学校と、いくつかの幼稚園を訪ねることもできました。フィンランドとスウェーデンは、たいへん密接な関係を持つて、交流をしているだけに、自由な創造的なふんいきが、ここでも感じられました。どこの園も、各保育室が二十五人に決められ、四組〜六組ぐらいが、四時間の保育を受けているところなど、日本によく似ています。そして、スウェーデンと異つて、ソビエトに隣接しているこの国

では、たいへんキリスト教を重要視して実施していることでした。

私の訪れたヤコブスタットの町では、やはり養成学校が、午前中、毎日、実習生を送っているようでしたが、この養成学校で学生たちの受けていた「図画工作」の時間は、もっと大がかりな木工をやっている、日本ならさしずめ、男仕事といったところでしょうが、立派な体格のこの女性たちは、よくそれをこなしてやっています。

「このような作業は好きか」と尋ねると、何時間やってもいいとあって、その日は夜の八時すぎまでも、この国の昔からある、ゆりかごの一種を新しいデザインで作っていました。フィンランドの親目的なことはいかなくて聞いていましたが、私の訪れた園では、どこでも日の丸の旗を作って歓迎されたのには、面くりました。また、町には日本製の自動車を多く見かけ、一人のドライバーは私を見て「日本人か？」と尋ね、「日本の自動車はすばらしい」と、大きな

手で握手を求められたほどでした。そして、養成学校でも、日本の幼児教育界と交流したいとのぞんでおりました。

× × ×

私はただいま、北部。次は中部、それから南、西と訪ねることになっています。まだ二ヶ所をまわったばかりで、意見はまだまだませんが、南の方は、デンマークの影響もあって、さらに自由な保育がなされているといえます。

それぞれの地方や国が、自分たちの身のまわりに持っている素材をいかして、保育の中にとり込み、家庭での生活と遊離したり、断絶のない、あり方をするのは、大切だと思えますので、その点もよく見きわめようと、できるだけ、子どもの家庭の中に入って、成育のありさまをみるよう努めております。

今回はこのくらいで……ではまた。

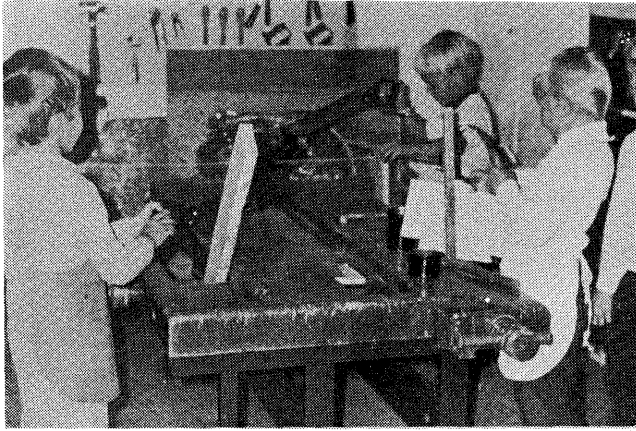
一九六九・九・二九

スウェーデンにて

スウェーデンのウメオー

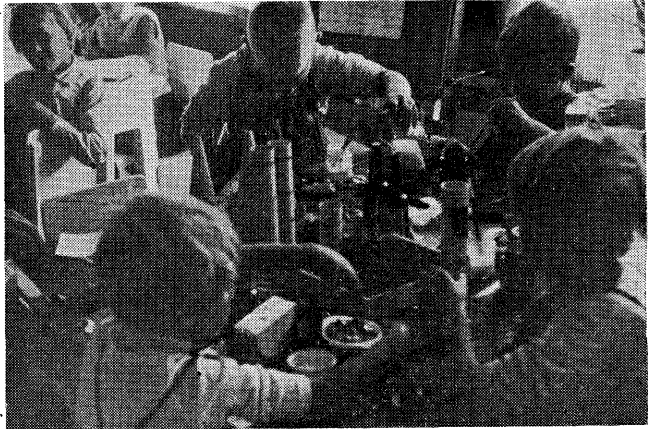
先生の考案した木製遊具で遊ぶ子どもたち





スウェーデンのウメオー

木工で製作をしている  
幼稚園児



フィンランド

素材を利用してのびのびと製  
作をしている幼稚園児



フィンランドの

ヤコプスタットの幼稚園で

園児と私